

長期金利 上昇に拍車

株高で一時0.92%

日銀、歯止めめに動く

大量資金供給 市場なお警戒

長期金利の上昇が続いている。15日は長期金利が約1年ぶりの水準をつけた。資金が債券から株などの資産に移るといふ市場の思惑が背景にある。景気の持ち直しを反映した動きだが、急激な金利上昇に対する市場の警戒感も強く、社債の発行延期など波紋も生じている。足元の市場の混乱を抑えるため、日銀も対応に追われている。



日銀総裁の副総裁、田中元輔(15日、参院予備会)。

長期金利の指標となる「乱高下を懸念して、銀行が保有国債を手放している」(外国系証券)。金利は15日、一時前日比0・075%高い0・920%まで上昇(価格は下落)が進むにつれ、損失拡大を避けた銀行は5年債を中心に売却。売り水準となった。さらに利回り上昇が目立つのが5年物国債で、同0・06%高い0・455%まで一時上昇。約2年ぶりの高水準を付けた。

銀行が国債売却 債券売りを主導したのが国内銀行だ。相場は新規発行額の7割相当を買い入れ、国債の利回りが長期金利を低下させるのが狙いだ。

しかし、そこに日銀の誤算が生じた。市場から大量の国債を吸い上げた結果、民間同士の売買が

4月に日銀が打ち出した量的・質的金融緩和は債券市場を通じて国債の新規発行額の7割相当を買い入れ、国債の利回りが長期金利を低下させるのが狙いだ。

長期金利の上昇を受け、企業の資金調達にもじわりと影響が及ぶ。15日までにJFEホールディングスや豊田自動織機などが準備していた社債発行を延期する見通しとなった。社債金利は長期金利に連動する

ため、当初見込んでいたような低利発行が難しくなったためだ。

「相場が乱高下する今の状況では価格の方向感がつかず、債券には手が出せない」と国内投資の運用担当者語る。国債を抱えたまま債券価格が急落し利回りが急上昇

待が高まっている証拠と

「オベ」対症療法」

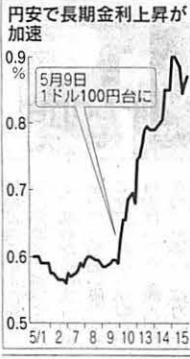
物価が上昇し、景気が良くなれば金利が上がるのは自然な現象だ。黒田

緩和で市場のインフレ期待が高まっている証拠と

「自然な流れ」

みずほ総合研究所・高田創子(エコノミスト)が提起しているのは、自然な流れだ。日銀の金融緩和が起きている。逆のこと

入額が大きく、スビッドが早すぎて混乱が起きている。デフレからインフレに転じる目標は大事だが、工夫して金利を下げる方策を探るべきだ。



円安で長期金利上昇が加速

社債発行を延期

JFEや豊田自動織機

豊田織機は近年限が7、東邦ガスも延期の方針だ。年10年の社債を発行する。社債金利は長期金利を基準に決まるため、企業にとり、長期金利の上昇は調達コストが増える。現在の金利急上昇が「同社」という。借り一時のなものを極めた換えが目的で今後のスケジュールの所もある。社債金利は「未定」と。定している企業も多くはJFEも発行準備を進めていたが、いったん様子を見たいと資金繰りに関係する。LIXILグループや支障が出るわけではない。

識者の見方

自然な流れ

みずほ総合研究所・高田創子(エコノミスト)が提起しているのは、自然な流れだ。日銀の金融緩和が起きている。逆のこと

好ましくない

法政大・小黒一正准教授

今起きている金利上昇は好ましくない。金融緩和は長期金利を引き下げる目的だったが、逆のことが起きている。逆のことが起きている。逆のことが起きている。

市場を満たし、不安心理

市場を満たし、不安心理を和らげるのが狙いだ。その効果で金利上昇には一応歯止めがかかった。ただ、市場では日銀の市場調節は対症療法。インフレ率を高める政策に従って金利上昇圧力は残る。(三井住友アセットマネジメントの深代潤シニアアドバイザー)との指摘が聞かれた。

抑制する必要がある

抑制する必要がある。